

山の百名花 番外編

講師 佐藤 マキ子

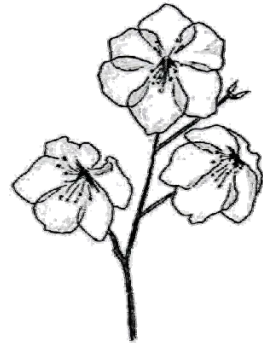
【113】アケボノツツジ

ツツジ科ツツジ属のアケボノツツジはツツジのなかでも大木になる。葉は枝先に五枚輪生し、葉柄に褐色の毛がある。花は薄紅色で5センチぐらいのふつくらとして美しい花で先が少しへこみ、上面に黄色の斑点がある。アカヤシオとは互いに変種の関係にあり、アケボノツツジは近畿以南に産する。

五月の中旬ごろ、紀伊半島南部の山々には、総じてアケボノツツジが多くみられる。大峰山脈の日本百名山の八経ヶ岳から釈迦ヶ岳、大日岳、前鬼宿まで歩いたことがあった。熊野三千六百峰といわれる山々が幾重にも折重なり波打つその先に、熊野灘がにぶく銀色に光ってみえる。登山道は岩崖地のため疎林となり岩が目立つ、その岩のもとな岩壁に生えるアケボノツツジの花は岩とのとりあわせがよく互いに引き立てあって、ブナの新緑とあいまって、尾根筋は花々で明るく彩られていた。

太古の辻から前鬼への険しく長い道のり

も、疲労困憊の身を癒し励ましてくれたアケボノツツジに感謝しながら、歩ききった。



【114】ハクサンフウロ

ハクサンフウロは夏山のお花畑を彩る高山植物の代表格である。

本州中部以北の亜高山帯から高山帯の高山草原や高地の湿原に生える。

葉は長い柄で束生し、掌状に五裂し、さらに細く裂ける。茎は10〜50センチ、これも五裂しさらに細裂対生する。1〜3個の淡紅色の五弁の平らな花をつける。上面に数本の濃色の筋がある。

フウロソウの仲間はないの山にあり美しさは小粒ながら、インパクトは強く、ハクサンフウロは特に他の仲間と紛らわしくなく一目でそれとわかる。

フウロソウの語源は蕾や蒴果のつく様子が古来の建築様式のひとつ「フウロ」の型に相当する由来とのことだか、触れるとハラリと散ってしまう花卉のことなどを考えると、やっぱり「風露草」が似合うのではないだろうか。下痢止めとしての葉草、ゲンノシヨウコは身近にあったが、高山にあるフウロソウは、北海道の山で出合ったエゾフウロ・トカチフウロ、早池峰など東北の山ではチシマフウロ、北アルプスなどではタカネグンナイフウロ、四国のシコクフウロ、屋久島でヤクシクフウロ、それぞれに忘れられないフウロソウとの出会いがあった。晩秋の山の楽しみは、草紅葉の中でもひととき美しい霜を纏ったフウロソウの紅葉に出会えることでもある。

